

### FY2022,FY2023 の藻場面積および CO<sub>2</sub> 吸収量の算定について

空港島全周の藻類分布調査は 3 年に 1 度、直近では FY2024 (2025 年 3 月) に実施している。その他の年度においては、母藻の移植および採取作業や、藻場環境保全活動のために潜水作業を実施しており、現地にて海藻の繁茂状況を確認している。

今回の申請では、以下の理由により、空港島全周で藻類分布調査を実施していない年度 (FY2022,FY2023) も含めた 3 年間分 (FY2022~FY2024) の CO<sub>2</sub> 吸収量を見積もり、申請を行う。

- ✓ これまでの調査結果から継続した海藻の繁茂が確認できる。
- ✓ 衛星データにより、全周調査未実施年度においても護岸周辺の着色 (藻場の維持) が確認できる。
- ✓ 全周調査未実施年度の潜水作業時の観察結果より、継続的な藻場環境の維持が確認できる。
- ✓ 環境省により実施された「令和 4~5 年度 瀬戸内海における藻場・干潟の分布状況調査結果」における令和 4 年度の藻場分布図より、関西国際空港島護岸に藻場が分布していることが確認できる。

#### ■ 全周調査未実施年度における面積の算定方法

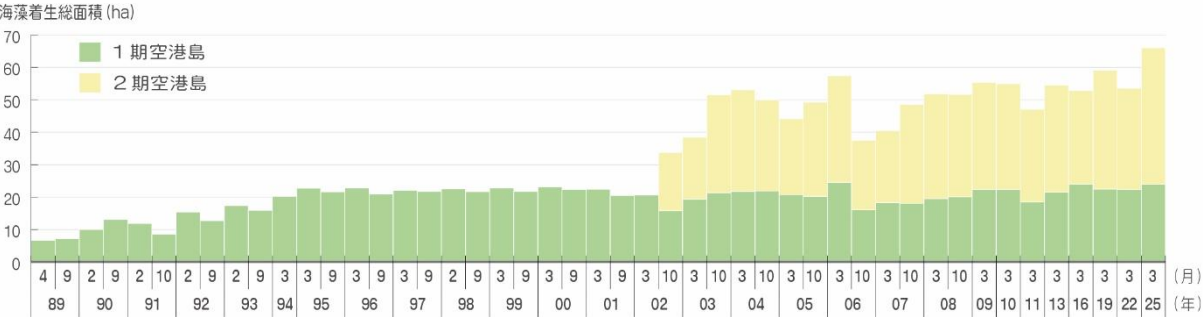
FY2021 (2022 年 3 月) と FY2024 (2025 年 3 月) に実施した空港島全周の調査結果 (海藻種別および被度別面積) を用いて、FY2022 および FY2023 時点の面積を線形補間により算出する。

#### ■ 全周調査未実施年度における CO<sub>2</sub> 吸収量の算定方法

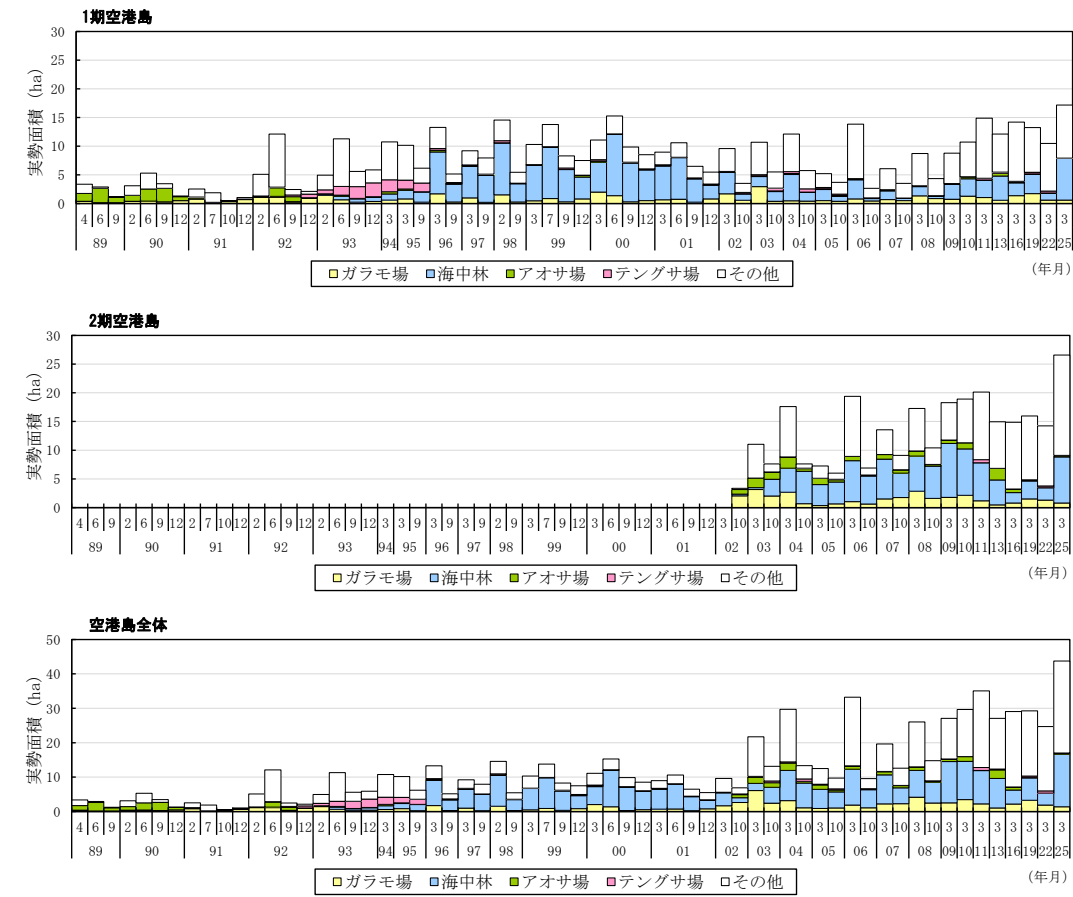
【02\_単位面積当たりの湿重量に関する参考資料】に記載の文献値および、FY2024 調査の実測値を用いて算出する。

【海藻着生総面積の推移】

藻場の生育状況



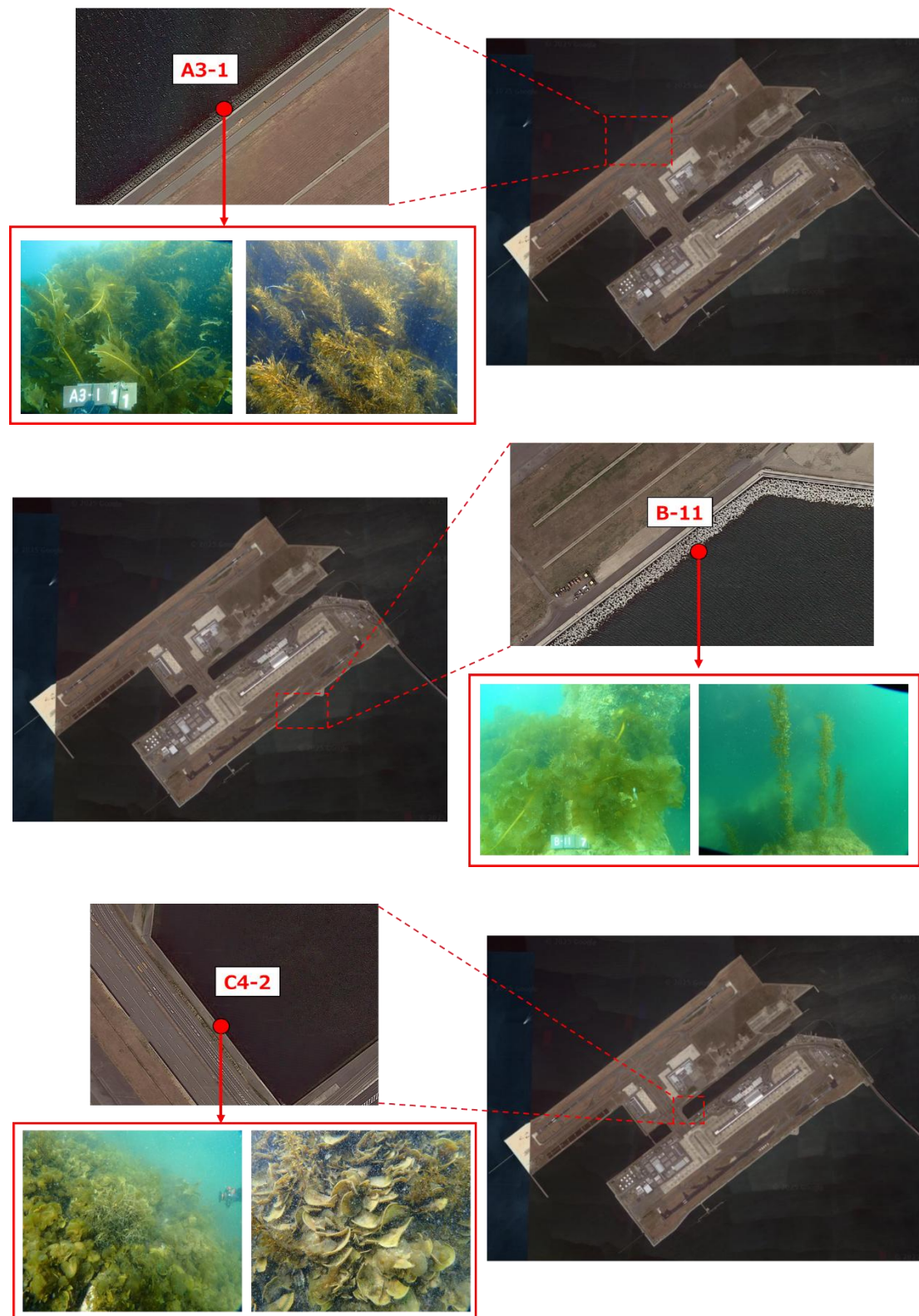
【海藻分類別 実勢面積の推移】



(別添 03)

【2022 年度 衛星データおよび調査時に撮影した海中写真】

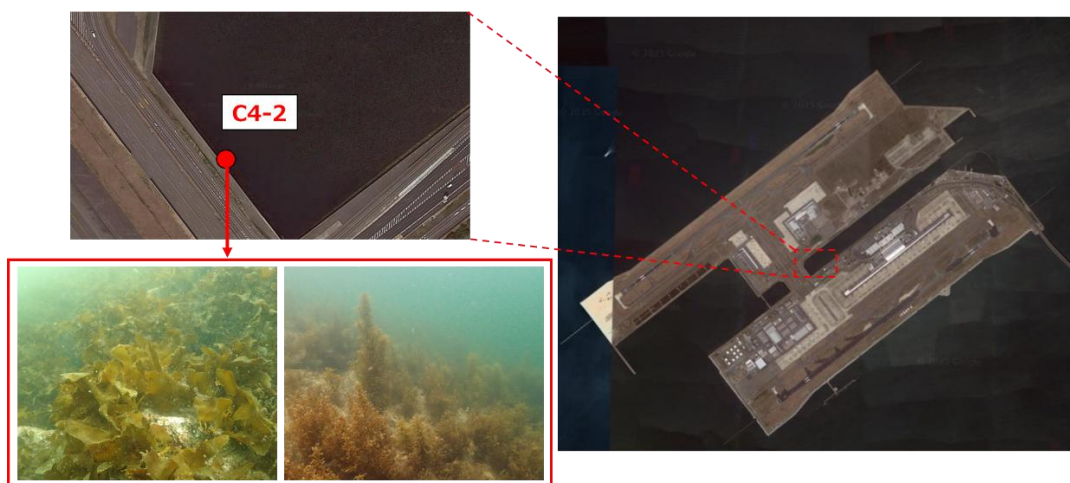
・ 2022 年 3 月



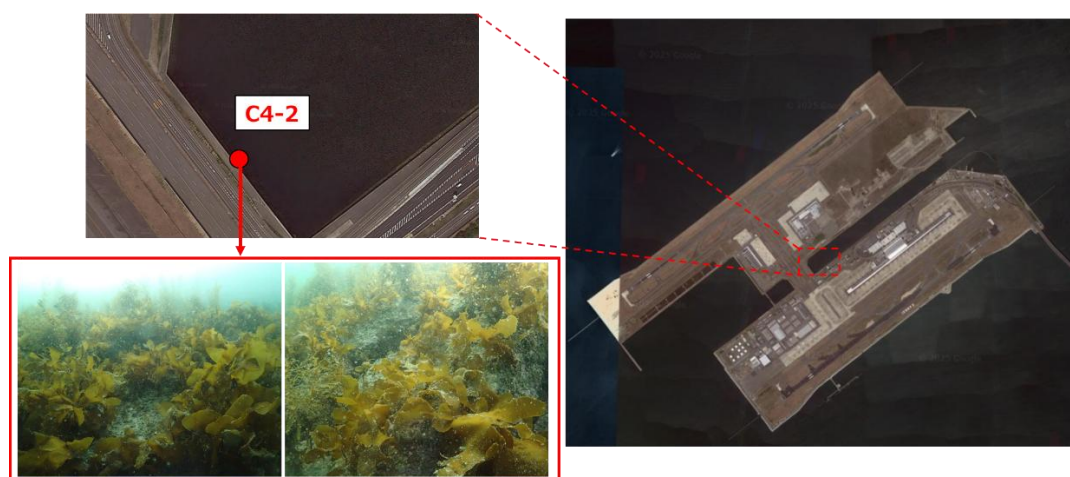
(別添 03)

【2023 年度 衛星データおよび調査時に撮影した海中写真】

・ 2023 年 8 月

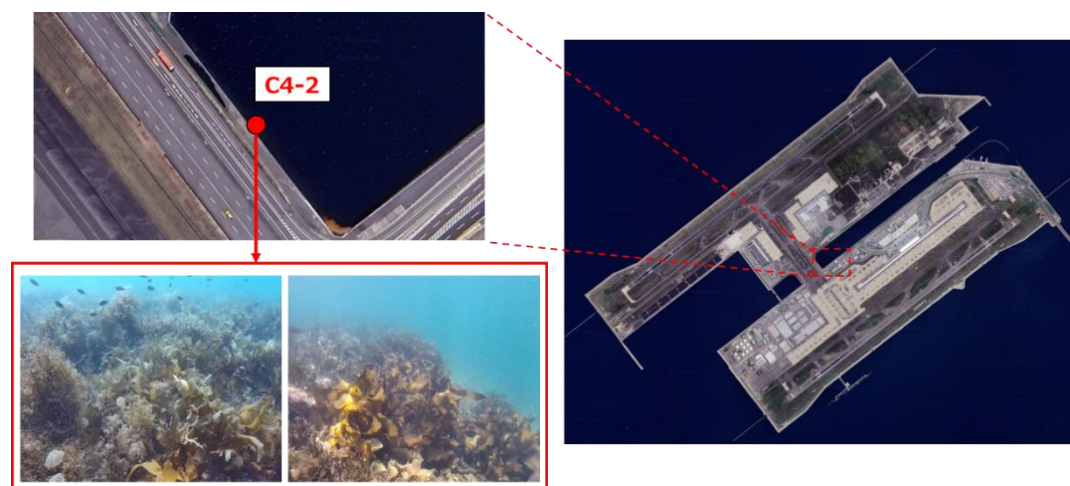


・ 2024 年 1 月



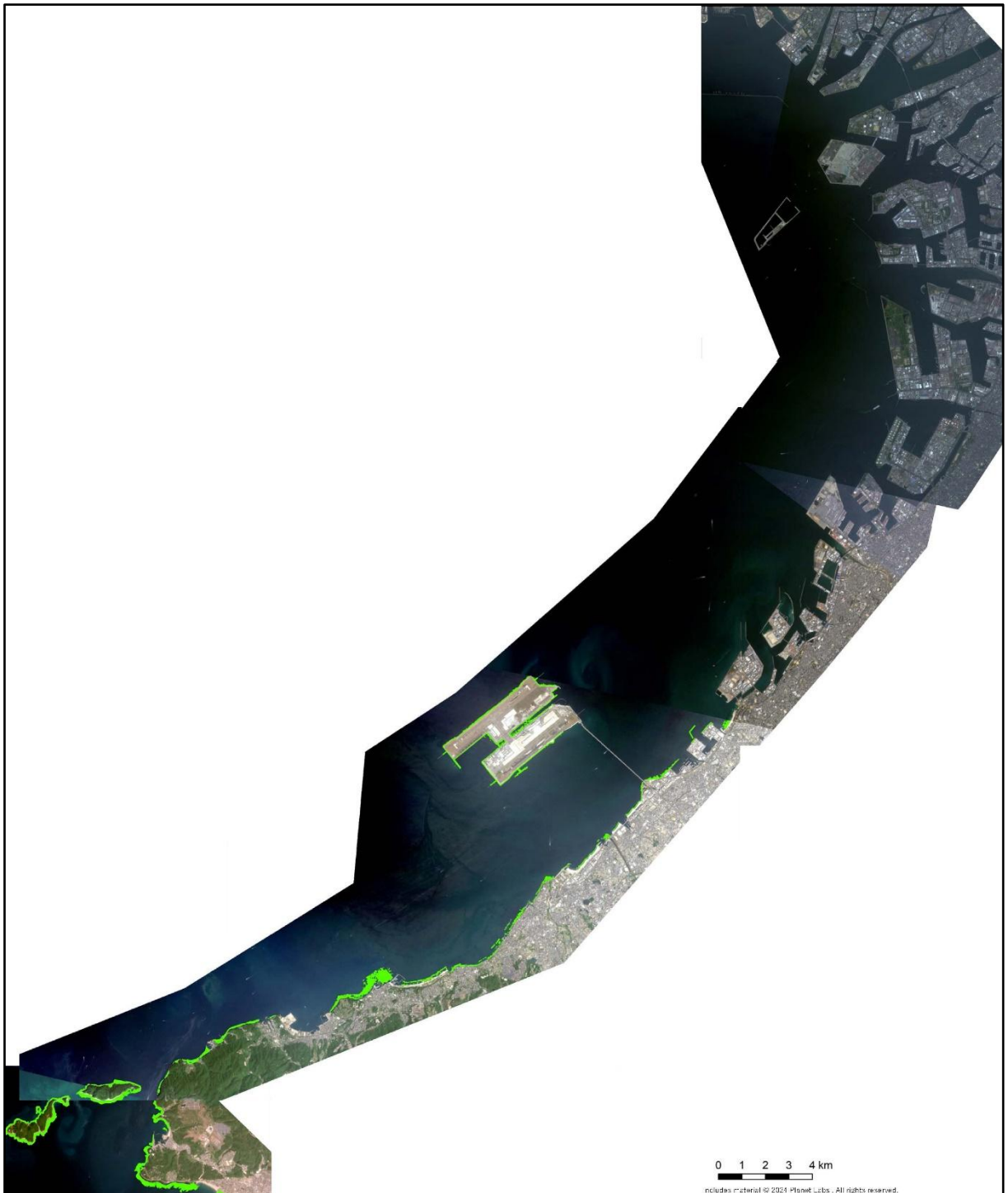
【2024 年度 衛星データおよび調査時に撮影した海中写真】

・ 2024 年 5 月



(別添 03)

【大阪湾の藻場の分布状況（令和4年、5年度）】



出典：瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査令和4年度5年度調査結果（瀬戸内海全域）  
（環境省，2024）